

琉球・沖縄  
年中行事?なんでも!  
Q&A

## 沖縄の紫微鑾駕について



●Answer

沖縄市・コザ山 球陽寺 前任職  
帰依 龍照 (きえりゅうしょう)

Q

住宅を新築しようと、建築会社と打ち合わせ中です。父が「新築には「シランカ」を置きなさい」と横から口を挟むのですが、設計士さんも私も意味が分からず困惑しています。父は何が言いたいのでしょうか？

(那覇市・Kさん)

A

「シランカ」を知らんか?」(笑)。すみません、おやじギャグでした

(汗)。Kさん、お父様のアドバイスは、実に意義深いですね。「シランカ」ではなく多分、「シビランカ」のこととおっしゃっているのだと思います。漢字では、紫微鑾駕(しびらんか)と書きます。紫微鑾駕とは、道教(どうきょう)の紫微大帝(しびたいてい・正式名称:中天北極紫微太皇大帝(ちゅうてんほっきょくしびたんぼつ)を司(つかさど)る紫微宮(しびぐう)の長神(おさしん・代表的な神)が、天より自らを鑾駕(らんか)という御神輿(おみこし)に乗じさせ、人々の住宅をめくり多くの幸せを与えるとする、「天官賜福紫微鑾駕思想(てんかんしふくしびらんかしそう)」に由来します。この天官賜福紫微鑾駕(てんかんしふくしびらんか)を略して、紫

微鑾駕といえます。

その他の説には、紫微鑾駕とは火を食べる女性の諱(いみな)とし、紫微鑾駕の文字を住宅に安置すると、火災に遇われないとする説と、頑丈な建物(けんぶつ)を数多く施工した大工の名棟梁(めいとりのりょう)の諱(いみな)とし、紫微鑾駕の文字を住宅に安置すると、除災招福(じよさいしりょうふく)に恵まれるとする説などがあります。

昔、沖縄の木造住宅では、紫微鑾駕、または、天官賜福紫微鑾駕を木札(きふだ)に扁額(へんがく・横書き)、または、縦書きし、天井裏の母屋(もや)と桁(けた)の交わる付近にある、棟木(むなぎ)という屋根裏の最上段の材木に取り付けていました。直接、棟木に筆と墨で記載していたということも耳にしたことがあります。一方で、沖縄の建築様式は、戦後、大きく様変わりし、昨今ではコンクリート住宅が主流の時代を迎えています。ニアギ(棟上げ)という上棟式(じょうとうしき)も、実際には、材木を棟に上げるといふ工程はなくなりつつあるようです。

さて、Kさんからの相談に戻りますが、現在、お考え中の住宅様式が、木造住宅の場合、お父様のアドバイスの通り、棟木に紫微鑾駕を安置することは、温故知新(おんこしん)として、とても素晴らしいことだと思います。また、コンクリート住宅の場合でも、設計士さんと打ち合わせして、天井裏などのしかるべき場所に、紫微鑾駕を安置することは、私が担当する起工式でも、多く耳にする事例です。天井裏ではなく、掛け軸として、床の間に安置したり、扁額(へんがく)として、イチバンジャー(一番座)に掲げている住宅も拝見したことがあります。写真の建築会社では、紫微鑾駕の木札を、施工代表から施主に手渡しすることに、より、沖縄の建築儀礼を畏敬(いけい)しています。デンサー節に「うとうややーぬ なかばしら(男性は住宅の大黒柱)」という歌詞があるのは有名ですね。この大黒柱は、ご存知のようにそれぞれ柱に支えられています。ご家族の柱、ご親族の柱、今回、住宅を新築することは、Kさんが大黒柱として、身近なご意見に感謝の気持ちを持つ機会でもあります。Kさんの住宅新築は、お父様やご家族・ご親族のグスージ(お祝い)でもあります。今まで、「なかばしら」として頑

張られてきた経験豊富なお父様からのご意見は、Kさん、今後、「なかばしら」として住宅を新築する、とても貴重なアドバイスとなることでしょう。お父様のアドバイスに感謝をしつつ、ご一緒に設計士さんとの打ち合わせができる素晴らしいですね。

一見、悩ましいように思われる異なるアドバイスも、その分、深い内容になることが多いものです。両方に耳を傾けられていることも、自身の心の広さをあらわしており、素晴らしい経験となったことでしょう。同じ様なことで悩まれる方々へのカラハリー(羅針盤)として、この貴重な経験を語り継いであげてください。



施工業者から施主へ(サイアスホーム・波平家/写真提供)

【質問をお寄せください】年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q & A 係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は22面をご覧ください。